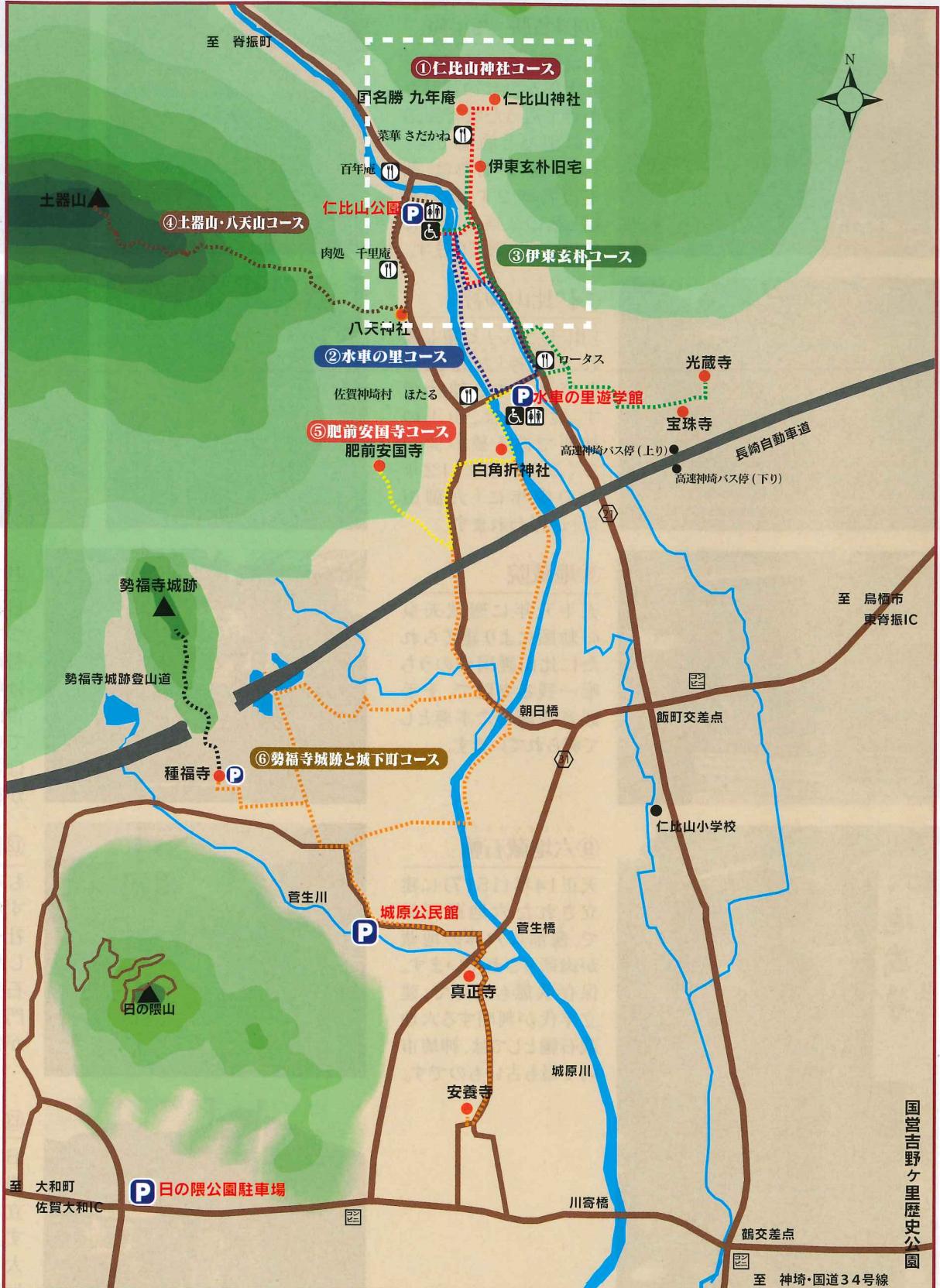


仁比山・城原地区マップ

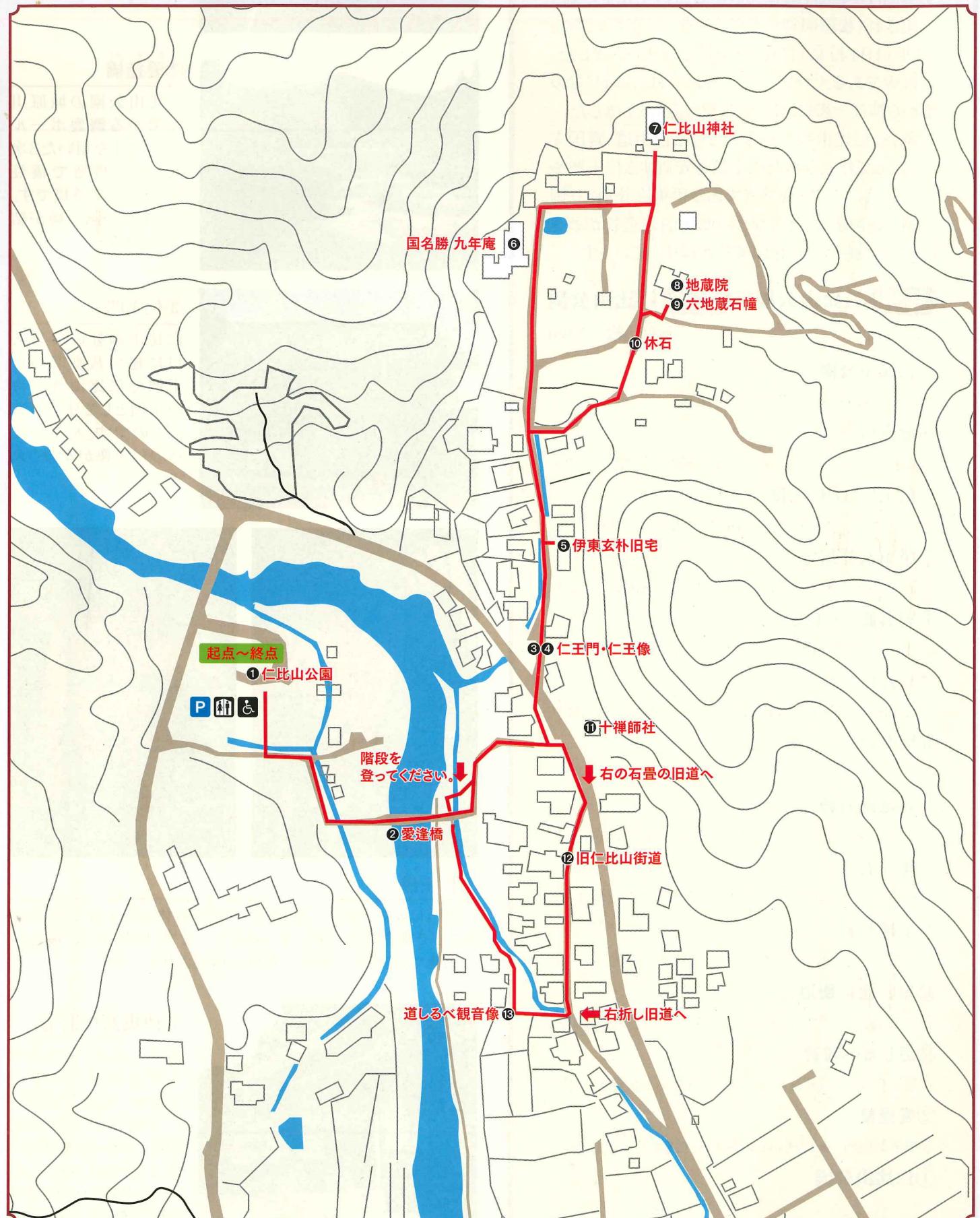
水・人・歴史がおりなす
かんざきを歩こう



全体コースの概要

- 山の神・火の神が降臨する地。脊振山に発する城原川が穀倉地帯佐賀平野に流れ出る水口の地でもあります。歴史と自然と水がおりなす当地区の歴史とそこに繰り広げられた人々の信仰や生産活動さらには戦いの歴史を廻る6つのコースを設けました。
- ①仁比山神社コース(起点:仁比山公園・往復約 1.7km)
 - ②水車の里コース(起点:仁比山公園・往復約 2.0km)
 - ③伊東玄朴コース(起点:仁比山公園・往復約 3.5km)
 - ④土器山(八天山)コース(起点:仁比山公園・往復約 4.0km)
 - ⑤肥前安国寺コース(起点:水車の里遊学館・往復約 3.0km)
 - ⑥勢福寺城跡と城下町コース(起点:城原地区公民館・往復約 7.0km)

No.1 仁比山神社コース



仁比山神社コース

仁明天皇の「仁」と比叡山の「比」を併せて「仁比山」と名づけられたこの地は、天平元年(729)に、松尾明神を勧請したことに始まると伝えられています。承和10年(843)に比叡山日吉山王社を分霊し合祀され「松尾明神」「山王神社」と呼ばれ、明治44年(1911)に「仁比山神社」と改称されました。神宮寺である天台宗仁比山護国寺は、往時には参道から神社一帯に36の坊が建ち並んでいました。

現在、仁比山神社の参道となる旧街道・護国寺の門として建立された仁王像を安置する仁王門や江戸時代の医者・蘭学者である伊東玄朴旧宅・国名勝 九年庵・地蔵院などの歴史的建造物が残され、谷の最も奥に仁比山神社が鎮座しています。

起点 仁比山公園～終点 仁比山公園

行程 約 1.7 km

①仁比山公園

↓公園より城原川に架かる愛逢橋へ

②愛逢橋

↓橋を渡ると「もみじの湯」前に出ます。県道を横断して下さい。

③仁王門・④仁王像

↓仁王門から参道を登り約50mで伊東玄朴旧宅へ

⑤伊東玄朴旧宅

↓更に、参道を登ると、紅葉で有名な九年庵前に至ります。

⑥国名勝 九年庵

↓九年庵より社務所前を通り仁比山神社へ

⑦仁比山神社

↓仁比山神社正面の階段を下りて左手に地蔵院があります。

⑧地蔵院

↓

⑨六地蔵石幢

↓地蔵院を右に出て、十字路より左折で休石があります。

⑩休石

↓参道を県道へ戻り、左折した県道東側に位置します。

⑪十禅師社

↓十禅師社より県道を横断し、石畳敷きの旧道へ

⑫旧仁比山街道

↓旧街道を南へ約100m進み、旧脊振往還へ右折し約30m。

⑬道しるべ観音

↓道しるべ観音より右折し、水路沿いを北上し愛逢橋下へ

⑭愛逢橋

↓橋下より、階段を上りもみじの湯前へ、橋を渡り仁比山公園へ

⑮仁比山公園



①仁比山公園

仁比山地区の観光拠点として城原川西岸に整備された公園で、駐車場・遊具・キャンプ場などの施設があります。



②愛逢橋

仁比山公園の城原川に架かる鋼製ボールジョイントを用いた3次元トラス構造で橋長62.7mの木造橋です。この橋を渡ると縁が結ばれるとか…



③仁王門

仁比山神社の参道入口に建つ八脚門の仁王門で仁比山護国寺の山門として建立されたものです。左右に二体の仁王像が安置されています。



④仁王像

仁王門に安置されている、阿形と吽形の2体の仁王像です。像高約3mで鎌倉時代の作と考えられています。県内、最大・最古の仁王像で、神埼市の重要文化財に指定されています。



⑤伊東玄朴旧宅

幕末の医者・蘭学者で我国近代西洋医学の先駆者である伊東玄朴の旧宅です。現在の建物は、玄朴23歳の時に建てたと伝えられ、この地で19歳から23歳まで医業を営んでいます。



⑥国名勝 九年庵

明治時代の実業家伊丹弥太郎が九年の歳月をかけて造った数寄屋造りの別邸と庭園です。「九年庵」の名称は、茶室の名称です。春の新緑と秋の紅葉の時期に一般公開されています。



⑦仁比山神社

「山王さん」と親しまれ、山の神「大山咋神」を祭神とする神社です。境内には、山王の神使である猿の像が多くみられます。12年毎の申年に「大御田祭」が行われます。



⑧地蔵院

天平元年に聖武天皇の勅願により建てられた仁比山護国寺のうち唯一残る寺院で、千手觀音菩薩がご本尊として祀られています。



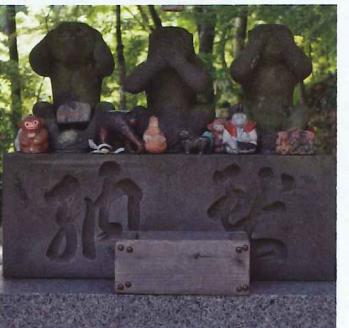
⑨六地蔵石幢

天正14年(1517)に建立された六地蔵石幢で、龕部に六体の地蔵が肉彫りされています。保存状態も良好で、建立年代が判明する六地蔵石幢としては、神埼市内で最も古いものです。



⑩休石

仁比山神社の大祭である「大御田祭」で下宮へのお下りのとき、神輿をこの石に乗せ一時休憩をする石です。



⑪十禪師社

日吉山王七社権現の一つで、瓊瓈杵尊を地蔵菩薩の権現とみて名づけられ、仁比山神社(日吉山王社)の下宮とされています。大御田祭ではこの下宮までお下りが行われます。



⑫旧仁比山街道

もみじの湯の南に位置する旧道は、仁比山神社へ至る街道(参道)でした。家並みや道路は石畳に整備され当時の門前町の街並み景観が残ります。



⑬道しるべ観音像

旧脊振往還と朝日の菩提寺に至る分岐点に建立された観音菩薩像です。「右 山王みち左 菩大寺みち」と書かれた道しるべ観音様で、寛政12年(1800)に仁比山の若者中と女人中により建てられています。